

野党の混乱に乗じて解散はしたものの、一時は希望の党人気に危うい時期もあったが、結局はだらしのない野党に助けられ、またもや連立与党で衆議院議席の3分の2を確保してしまった安倍総理の運の強さには恐れ入るばかり。解散の大義もなく、後付けで北朝鮮問題、消費増税分の一部を幼児教育無償化に転換などをくっつけた。幼児教育無償化は与党内でどれだけ議論されたかわからないが、一時、民進党(民主党?)が掲げていた政策をまんまとパクリ、大義の一部にしてしまった。褒め殺しの素晴らしい。これでまたプライマリーバランスがゼロになる時は遠のいた。

選挙公約ですべての幼児教育無償化をうたっていたが、無償化は消費税が逆進性であることを考慮すると、家庭の収入によって特に低所

しないようバランス感覚が必要と考える。政策自体が衆院選の票集めのためだったので、安倍総理は今になって財界に3,000億円の援助を

億円の拠出によって、サラリーマンにそのしわ寄せがくるのではないかとということが少々気がかりである。

いつも思うのだが、将来を見越した政策が少なく、その場しのぎのものが多すぎる。野党も反対ばかりでなく、知恵を絞って与党案を凌駕するような政策を掲げて戦ってほしい。一時の風に乗って勝ったとしても長続きしないのは、過去の事例を見れば明らか。そして、現在の政権はほかによさそうな政権がないからとりあえずという消去法の結果であって、決して積極的に国民に支持されているわけではない。野党から素晴らしい政策が出れば、政権交代はそう難しくないように思える。

論壇

衆院選、幼児教育無償化 そして政権交代

茨城県保険医協会 広報部員 真中 信之

得家庭に手厚く完全無償化、ある一定の高額所得家庭は補助なしにするなどの思い切った措置が必要であろう。また、無償化ばかりが先走り、待機児童問題をおろそかに

求めたり、不認可保育所に預けている場合はどうするのかなどの諸問題が次々として出てきている。この政策がうまく機能してくれるか、はなはだ疑問である。また財界からの3,000